

## 宇都宮市立宝木小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の肯定割合は98.2%で、全国平均より少し上回っている。児童からの些細な訴えや児童間の話題に関する話に学年の教師全員で足並みを揃えて傾聴することで、問題の未然防止や早期発見に努める。日常生活においては、定期的に学年集会を実施することで、学校生活で気を付けなければならないことや、登下校の安全確保等について都度注意喚起をし児童が落ち着いて生活できる環境の確保に努めている。今後も学年全体として児童の生活の様子や児童間の交友関係を見守り、必要に応じて支援を行っていく。

○「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の肯定割合は86.6%で、全国平均より少し上回っている。授業においては、既習事項の確認や授業や単元を通しての振り返りを充実させていく。何を学んだのかやこれからどう生かして生きたいかなど、振り返りの視点を明らかにすることで、自分の学習を見直したりこれからの学習に生かしたりしようとする児童の育成に努めたい。また、学習したことを家庭でも生かせるように、学習がんばり週間や学年だより等を活用して家庭への協力を呼び掛けていく。具体的で取り組みやすい目標を設定して自主学習に継続的に取り組んだり、学習したことを家庭で実践したりすることを通して、実践力に結び付くような指導や支援を行っていく。

●「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度活用しましたか」の週3回～ほぼ毎日の割合が47.3%で全国平均より12.2%低いことから、既習事項の復習にICT機器を活用している児童が少ないことが分かる。普段の家庭学習でスマイルネクストを実施している児童は見られるものの、授業と平行した内容に留まっている場合が多く、前学年までの内容も適宜実施するよう斡旋することが求められる。一方で授業で用いるスクールタクトやドキュメント等のツールを使用した学習活動において、それらを問題なく活用する様子が多々見られることから、ICT機器の活用という点ではすでに学習に生かすことができている。今後は活用方法や機会について、復習することにも時間を割けるような指導や声かけを行っていく。

●「国語の勉強は好きですか」の肯定割合は49.2%で全国平均より12.8ポイント低く、当てはまらないと回答した児童は50.9%で全国平均より14.9ポイント高いことから、国語が好きな児童が少なく、嫌いな児童が多いことが分かる。国語の調査結果からも分かるように書くこと以外の項目では全国平均より下回っており、話すこと・聞くことや読み取りに課題に見られる。しかし、「国語の勉強は大切だと思いますか」の肯定割合は95.6%で全国平均と同等の結果となっている。この結果から、国語ができないことから苦手意識も高まり、嫌いになってしまっている児童がいる一方で、国語の学習は将来においても大切だと考えている児童が多いことが分かる。まずは、児童のできていることや頑張りを大いに称賛し、できる喜びを実感できるような授業を目指していく。また、国語に限らず各教科において対話的な学びや問題場面の丁寧な読み取りを通して、基礎的な力の定着を図っていく。

●「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表をしていましたか。」の肯定割合は57.1%で全国平均より10.5ポイント低いことから、児童の発表することへの苦手意識や不安感がわかる。また、資料の活用や筋道を立てて伝えるために準備をしていくことに対して難しさを感じる児童は、国語の学習に対して苦手意識を持つ児童との相関があると分析する。よって、国語の学習のみならず、各教科や総合的な学習の時間を通して、自分の思いを表出させる場面設定、筋道を立てて伝えていく知識・技能の定着を図っていく。

●「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の肯定割合は、72.3%で全国平均より9.6ポイント低い。各授業の中で、教師と児童とで単元や授業の進む道筋を確認し、ゴールやめあて、学習課題を共有する授業を展開していきたい。また、その学習過程を児童自身に自己選択・自己決定させ、自己調整力を育むとともに、丁寧に見取り褒めていきたい。